

# 大学本部での研究力分析を通じて 感じたこと

平成28年10月25日

研究力を測る指標の抽出と大学の研究力可視化に関する基礎的研究  
国際キックオフシンポジウム

東北大学  
研究推進本部 URAセンター  
清家弘史



TOHOKU  
UNIVERSITY

## 本日のフライヤー

科学研究費助成事業・特別研究促進費・国際キックオフシンポジウム

大学・研究機関(分野別・機能別)の

**研究力**はどのような**指標**で分析可能か？

平成28年10月25日(火)  
13:00開場13:30-17:15  
東京医科歯科大学M&D  
タワー鈴木章夫記念講堂  
(参加無料)

申し込み等について  
参加希望の大学・研究  
機関ごとに、大学  
研究力強化ネット  
ワーク事務局  
office@runetwork.jp  
まで、お問合せくだ  
さい。

「日本の大学等の研究力は、研  
究分野別・大学機能別に、正しく  
分析されていないのではない  
か？」「日本の大学や研究機関  
の研究をめぐる国際的な地位・  
競争力を多角的・総合的に測る  
指標が適切に提案されていない  
のではないか？」という仮説を  
設定。その上で、現状の課題と  
問題点を洗い出し、研究力を分  
析する、あるべき指標を考える  
科研究プロジェクト、その国際  
キックオフシンポジウムを開催  
する。

講 演：  
文部科学省ご挨拶  
研究プロジェクトより  
a. 小泉周特任教授(自然科学研究機構)  
b. 駒原有志教授(東京工業大学)  
c. 鳥谷真佐子助教(金沢大学)  
d. 清家弘史特任准教授(東北大学)  
e. 後藤真准教授(人間文化研究機構)  
(休養)  
国際アドバイザーより  
(英語にて講演、資料は日本語を付記)  
a. John I Green氏(ケンブリッジ大学)  
b. Lisa H. Colledge氏(エルゼビア)  
c. Brian Lin氏(AAAS)  
ご挨拶 山本進一副学長(岡山大学)

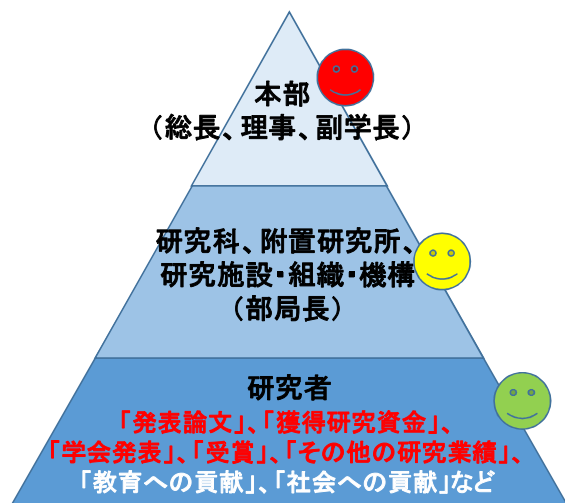
懇親会&情報交換会(18:00より)希望者のみ会費制にて開催  
(事前申し込み、当日受付にて支払い、4000円を予定)(東京  
医科歯科大学敷地内「あるめいた」にて)

主 催： 科学研究費助成事業・特別研究促進費「研究力を測る指標(分野別・大学機能  
別)の抽出と大学の研究力の可視化に関する基礎的研究」  
(自然科学研究機構 小泉周 代表)  
共 催： 大学研究力強化ネットワーク(大学ランキング指標F)  
エルゼビア・ジャパン株式会社

- 日本の大学等の研究力は、研究分野別・大学機能別に正しく分析されていないのではないか？
- 日本の大学や研究機関の研究をめぐる国際的な地位・競争力を多角的・総合的に測る指標が適切に提案されていないのではないか？
- 現状の課題と問題点
- 研究力を分析する、あるべき指標

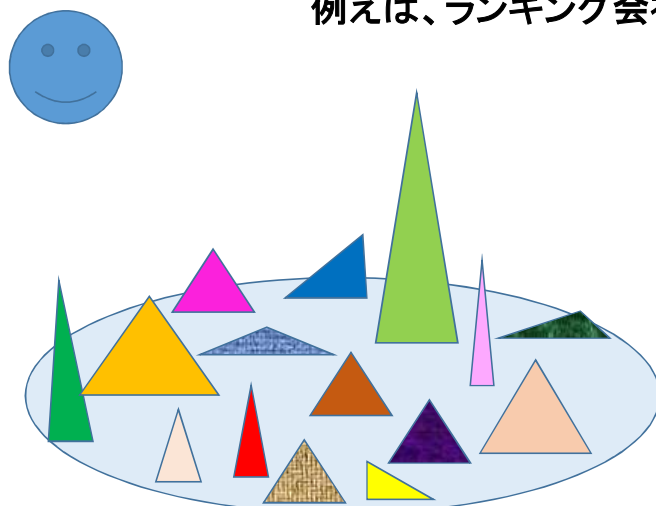
# 誰が、どの立場で指標を使うのか？

[大学に所属する者の立場として]



[大学の外からの立場として]

例えば、ランキング会社



## 東北大学の研究力を分析する

- 設立: 1907年
- 所在地: 日本国 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1
- 学生数: 17,885 (平成28年5月1日現在)

学部学生	11,052 (204)
大学院学生(修士・前期・専門職)	4,174 (659)
大学院学生(博士・後期)	2,625 (592)
附属学校	34

- 教員数: 3,193 (平成28年5月1日現在)
- 総合大学

学部	10
大学院研究科	16
附置研究所	6
その他(専門職大学院、病院、WPI、研究センターなど)	

### 1. 発表論文

- Scopus on 2016.10.22  
5,892報 (2015年)
- Web of Science Core Collection  
所属機関拡張 on 2016.10.22  
4,886報 (2015年)

### 2. 研究費収入

- 科学研究費補助金付与実績  
(平成27年度)  
2,812件; 10,152,423,000円
- その他の研究費収入

### 3. その他



## 誰が指標を計算するのか？

---

What I cannot create,  
I do not understand.

Richard Feynman



## 具体例～ビブリオメトリクスから～

---

課題) Scopus、SciVal、Pureを用いて、次の3つの指標を算出せよ。

- 1) 自分の大学の発表論文数
- 2) 共著論文数 (国際共著、産学連携共著)
- 3) Top10%論文数



## 現状の課題と問題点(私見)

---

課題・問題点： 指標に対する戸惑い

解決方法： 実際に使ってみる。

その結果： 指標のあるべき姿が見えてくる。

ご清聴ありがとうございました